

誓いを新たに心を磨く

法華宗青年伝道隊 東北地区隊 隊長

近藤文陽

能代市感応寺住職

新年あけましておめでとうございます。

平成から令和へと元号が変わりはじめてのお正月を迎えます。令和元年は巨大台風が猛威をふるい、日本各地に甚大な被害をもたらしました。その災害を受けて、原井日鳳法華宗管長は「我等は信行の菩薩行（唱題）と報恩行の菩薩行（供養）を車の両輪として衆生の命を大切にすることを持続可能社会の実現（蘇生）を世に提唱しなければならぬ」と論達されました。

お題目を唱え、先祖をはじめあらゆる命を供養すること。そして、他人の命を思いやること、地球環境を大切にすることがより良い社会をつくります。新年にあたり、このことを考え直したいものです。

その「供養」について本紙（平成30年お盆号）では、秋田市営共同墓を取り上げ、その大切さを訴えました。お墓は故人の生命を供養するためにありますが、秋田市営共同墓は単に遺骨を納めるだけのもので、その理念には供養の心がこめられていないように感じます。

平成の30年間で、「少子高齢化」が急速に進み、後継者を前提としない永代供養墓や共同墓の必要性が高まりました。そして、この数年で民間業者や自治体による永代供養墓の建立が急増しています。しかし、そこに供養の実践（仏事を行い、お経をあげる）があるのでしょうか。単に遺骨を安置し、墓石を維持するだけでは、名ばかりの永代供養です。

とある寺院（他宗派）が魁新聞に掲載した共同墓の広告に目を疑いました。それは次の文章です。

葬儀の有無、法名の有無、宗派等は問いません

供養を実践するお寺が堂々と「葬式をしていなくても法名が無くても納骨できます」と宣伝しているのです。葬儀を通して生命を供養することの大切さを説くことがお寺の仕事です。数百年の長い歴史があるというこのお寺。先祖が護り続けてきた葬送文化・供養の心を軽んじているように思えました。

先日、私が住職を務めるお寺の共同墓に、「お葬式をしていないのですが、納骨させてもらえますか」との問い合わせがありました。私は、お葬式をしていない方の納骨はできないことに加え、供養の意義をご説明しました。するとその方は納得して、葬儀・納骨をお勤めになり、「しっかりと供養することが出来てよかった」と安堵された様子でした。

このように、供養の実践《南無妙法蓮華経を唱えること》が、故人の成仏と遺族の安心となるのです。また、生命が無いものの「人形」に対して供養をしてもらいたいという葬儀社からの依頼がありました。職員の方は



JA山本葬祭センター・クオールの3,000体の人形が主催した人形供養祭に、のしる。

『ただの人形であればそのまま処分できるが、想いのこもったものだから最後に供養し感謝を伝えたい』と語りました。生命なきものにも供養をしたいという心は尊いものです。生命あるものに對する供養の大切さは言うまでもありません。

さて、皆さんは一年の始まりにどんな誓いを立てますか？

「今年は写経に挑戦してみたい」

「暴飲暴食を控えて健康的に暮らそう」

「仕事が順調にいきますように」

皆さんそれぞれの思いを込めて新年のお寺参りをしてください。

日蓮大聖人は、私たち人間の迷う心を磨くには、南無妙法蓮華経を唱えるほかにないと教えています。誓いを新たに心を磨いて、より良い一年となるよう共に精進しましょう。合掌。

浄土と云い穢土と云うも土に二つの隔てなし。只我等が心の善悪によると見えたり。

衆生と云ふも仏と云ふもまたかくの如し。迷ふ時は衆生と名づけ、悟る時をば仏と名づけたり。譬へば閻魔も磨きぬれば玉と見ゆるが如し。

只今も一念無明の迷心は磨かざる鏡なり。是を磨かば必ず法性真如の明鏡と成るべし。

深く信心をおこして、日夜朝暮に又懈らず磨くべし。何様にしてお磨くべき、只南無妙法蓮華経と唱へたてまつるを、是を磨くとは云ふなり

* 語句解説 *

【衆生】生命のあるすべてのもの。人間をはじめすべての生物。